



晩年のジョン・ウェスレー
牧師は「私は今や年老いた者

年をとるごとに素早くでき
なくなったり、以前より動作
が遅くなってきたように感じ
ます。

晩年のジョン・ウェスレー
牧師は「私は今や年老いた者
とが増える中で「…神は最後
にいちばんよい仕事を残して

年をとるごとに素早くでき
なくなったり、以前より動作
が遅くなってきたように感じ
ます。

最期に残るものは神の愛

司祭 マルコ 平野 一郎

神のおとずれ

日本聖公会 神戸教区報



2025年
5月号

発行所

神戸教区事務所

TEL 078(351)5469

FAX 078(382)1095

<https://www.nskk-kobe.org/>



発行責任者

司祭 林 和 広

印刷所

文明堂印刷所

くださる。それは祈りだ」(ヘルマン・ホイヴェルス神父『最上のわざ』の詩)という言葉は慰めとなるのでないでしょうか。

…人への愛と神への祈りは、病気にも障害にも決して邪魔されることはない」と語っています。

31歳の時に多発性硬化症という難病にかかったクリスチヤンの阿南慈子さんも「再発を繰り返すたびに視力や身体のあちこちの機能が衰え、今まで当たり前のようにしていたたくさんのことが、どんどんできなくなっていく。あれもダメ、これは無理と次々と消していくと、あと何が残ったのか。それは私にとって生きるこの意味は何であるかの答えを出すことであった。

彼女が「でもこれら心の姿勢、精神性を最上のものとすればするほど、それを抱きえない場合はどうなるか。病気によってそういう状態にわたしもなるかもしれない。実際そうなるって、この世を去っていった難病の友が何人もいる。また精神・知的障がいのある人や、老人性認知症の人の存在価値は？

価値は、「神の愛」神に愛されていることただそれだけ」と述べています。

晩年の宣教師エリオットも「私は理解力を失った。記憶を失った。言葉の自由を失った。しかし、愛のみは残っていることを神に感謝する」と告白しています。

聖書においては「…他のどんな被造物も、わたしたちの主キリスト・イエスによって示された神の愛から、わたしたちを引き離すことはできないのです。(ローマ8:39)。

「それゆえ、信仰と、希望と、愛、この三つは、いつまでも残る。その中で最も大いなるものは、愛である」(1コリント13:13)と記されています。

たとえば私たちは記憶を失ったとしても「神に愛されている」ことは変わらず、「最期に残るものは神の愛」であることを覚えたいと思います。

(福山諸聖徒教会牧師・倉敷聖クリストファー教会管理牧師)

2023年 日本聖公会宣教協議会からの呼びかけ⑥ 2人々の声に耳を傾けよう〈教会・地域・となりびと〉

「地域の必要に応える」

（関連施設とも協働し、課題に取り組もう）

グレース 末 永 忍

このテーマである「地域の必要に応える課題」とは何でしょうか？阪神淡路大震災においては、教会も被害に合いながら地域の皆さんを支える拠点として活動しておりました。東日本大震災においても同様です。災害・有事に限らず、教会としてできる「地域の課題」とは何でしょうか。地域によって教会の周りの環境も違いますし、「何を必要とされているか」もわかりません。まずは地域との関りを深めていくことが大切ですね。

コロナ禍にあった4年間は、人との間に距離をとらなければいけない期間で、礼拝も思うようにできず、幼稚園

との関りも難しい期間でした。コロナが5類になって以降、バザーやカフェ、地域の方と共に子ども食堂、ホームレスへの炊き出しなどの活動を再開された教会や個人的に障害者支援の活動をされている話も聞きます。地域と共に生き、地域支援の活動は大変でもありますが大変な働きです。

すね。

明石では一昨年から子ども対応企画を続けています。昨年夏まつりを開き、50人を超える子どもたちとその保護者が集まりました。園児だけでなく近隣のご家族も参加してください嬉しい日になりました。保護者の方からは「子ども

もの楽しめるイベントがあつ

て助かりました。」と言われ、宣教だけでなく地域支援にもなるのだと感じました。

教会の活動においては、牧師先生が他の教会に移ったとたん終了してしまうケースもあるようです。信徒も一緒に関わっていくことで、活動が続き、人との縁も増え、教会の活性化にも繋がるのではと感じます。

教会・信徒の働きによって神様の愛が、地域の皆様にも沢山降り注ぐように、神様と共に歩んでまいりましょう。

世界の聖公会の動向

司祭 ポール・トルハースト

（管区事務所渉外主事）

自動車技術で若者の生涯をサポート

オーストラリア聖公会のフツクレイ・パリッシュ内のコミュニティによる取り組みのおかげで、危険にさらされている若者たちが、自立した生活への移行に役立つ貴重なライフ・スキルを身につけることができるようになった。

参加した若者たちは、プログラムは楽しく、多くを学んだと語った。インストラクターがくだらない質問にも偏見を持たずに答えてくれたのがよかったという。

このワークショップは、自動車のメンテナンスと安全性に重点を置き、メルボルン全土の恵まれない若者たちを支援する青少年慈善団体、コンサーン・オーストラリアと連携して運営されている。

フツクレイのナイジェル・ポーپر師は「教会の施設を使って若者たちをもてなし、歓迎することに興奮して

います。この取り組みは単なる技術以上のもので、帰属意識、サポート、コミュニティ意識を育むものです」と語った。

参加した若者たちは、プログラムは楽しく、多くを学んだと語った。インストラクターがくだらない質問にも偏見を持たずに答えてくれたのがよかったという。

フツクレイのアシスタン・ト・キュレーターであるケジャ・アンガミ師は、「車のメンテナンスのような実践的なスキルは、人々の生活に画期的な違いをもたらします。私たちは、これらのワークショップがただ教えるだけでなく、自信とコミュニティを築くことを願っています」と語った。

聖公会の神学部長たちが神学教育の土着化のために会合をもつ

オークランドにあるセント・ジョンズ神学大学は、東アジアとオセアニアの聖公会の神学部長による画期的な会合を主催し、先住民による視点を通して神学教育を再構築する方法を提案した。

2025年3月2日から4

日にかけて、聖公会神学部長ネットワークはオークランドのセント・ジョンズ神学大学で2年に一度の直接会合を開いた。香港、台湾、フィリピン、パプアニューギニア、ソロモン諸島、オーストラリア、アオテアロアニュージールランド、ポリネシアを含む東アジア・オセアニア全域から、神学教育の校長、学部長、ディレクターが集い、米国聖公会、USPG、アングリカン・コミュニティオン事務局からの代表者も参加した。

セント・ジョンズ・カレッジの環境は、このビジョンがどのようなものかを示す、刺

激的なモデルとなった。マオリの指導者が指揮を執り、先住民の学生がかなりの割合を占め、マオリのアイデンティティが深く根付いた文化を持つこのカレッジは、会議を通して議論された原則の多くを体現している。参加者は伝統的なマオリの歓迎を受け、礼拝はマオリと英語の両方で行われた。

セント・ジョンズ神学大学校長のヒリーニ・カア師が主催したこの会議は、「聖公会の神学教育の土着化」というテーマで行われた。参加者は、アングリカン・コミュニティオン全体で先住民の考え方や文化が神学教育を形成できるように、神学カリキュラム、教育法、組織生活をどのように作り変えることができるかを検討した。

会議中、ヒリーニ博士は参加者に対し、抽象的な枠組みに頼るのではなく、具体的な場所から神学を組み立てるよう促した。場所や土着のアイデンティティとの深い結びつ

きが、教会の刷新には不可欠だと彼は主張した。

これから聖公会の神学部長たちがそれぞれの教育機関に戻り、先住民の視点から神学教育を再構築するという呼びかけが最前線でなされる。そして彼らがコミュニティオン全体にわたって教会の未来を形作る取り組みを導くことになるだろう。

アングリカン・コミュニティオン 総主事、メラネシア殉教者の墓を訪問

アングリカン・コミュニティオン総主事のアンソニー・ポツゴ師はこのほど、メラネシア聖公会の視察の一環として、メラネシア殉教者の墓を訪れた。

メラネシア大主教レナード・ダウエア師の司会のもと、総主事は、ソロモン諸島の民族対立の中、平和構築活動に従事し、2003年にソロモン諸島で反政府勢力に殺害されたメラネシア同胞団の7人の殉教者について詳しく学ん

だ。メラネシアの殉教者はカントベリー大聖堂でも追悼されており、2008年のランベス会議の閉会式では、彼らのアイコンが奉納された。

総主事は祈りを捧げ、彼らの犠牲を称え、勇気と奉仕の遺産を祝福した。閉会の辞では、兄弟たちから託された重要な仕事を続けるよう激励し、福音を広め、地域社会に奉仕するという彼らの重要な役割について述べた。

メラネシア教会は次のように報告している。「ポツゴ主事の訪問は、世界各地の聖公会の結束を促進し、関係を強化するというアングリカン・コミュニティオンの取り組みを強調するものです。メラネシア聖公会は、この歴史的な訪問を歓迎します。この訪問は、世界的なアングリカン・ファミリーのミッションとミニストリーにおいて、絆を深め、相互協力を促すものです」。

(神戸MtSチャブレン)

南海トラフ地震に そなえて

No.1

地震、津波、火災、自然災害の前に、私たちはなすすべも無く翻弄されてしまう現実、心が痛み、祈ることしかできません。被災された方々に思いを寄せ、祈りとともに災害支援・復興支援を行い、ともに歩むことを行ってきました。

私たち神戸教区は、1995年に発災した阪神淡路大震災の際には自ら被災をしつつも、地域の方々への支援を行い、地域復興の歩みとともに進めてきました。この先、東南海地震が起きると予想されています。神戸教区社会部ではこのコラムを通して、各教会・個人へ東南海地震にそなえる情報提供を行っていきます。また、各教会での防災対策もお寄せいただければ、教区として共有していきたいと考えています。どうぞよろしくお願いいたします。

(社会部記事)

第95(臨時)教区会 神戸教区主教選挙結果のお知らせ

2025年3月31日

神戸教区
教役者・信徒のみなさま

神戸教区管理主教
イグナシオ 入江 修



2025年3月29日(土)に教区内の各教会より、教役者議員・信徒代議員が
神戸聖ミカエル大聖堂に一同に集い、第95(臨時)教区会 神戸教区主教選挙
がおこなわれました。

厳正なる投票の結果、別紙の通り第一回の投票において
司祭 バジル 八代 智 師が選出されました。

こののち、主教会で過半数の承認を経て、ご本人が主教就任を受諾されますと
主教被選者となられ、主教按手式を受け、教区主教に就任されるはこびとなります。

皆さま、八代 師を覚えて、今しばらくは静かにお祈りくださいますよう
お願いいたします。

在 主

鳩だより
《敬称略》

祝 洗 礼

3月30日(日)

ルカ 井上 健
広島復活教会

3月31日(月)

グエロニカ 河村 真由美
マグダラのマリア
神戸聖ミカエル教会から
神戸聖ペテロ教会へ

4月1日(火)

マーガレット 瀬山 みちる
浜田基督教会から
徳山聖マリア教会へ

ご 逝 去

1月20日(月)

サ ラ 福原 美智子
松山聖アンデレ教会

3月21日(金)

クリストファー
小 山 泰 一
明石聖マリア・マグダレン教会

3月6日(木)

マーガレット 本田 好江
神戸聖ミカエル教会

3月30日(日)

ハンナ 中 林 かずゑ
広島復活教会

3月14日(金)

マルタ 井原 正子
神戸聖ミカエル教会

6月の教区関係教役者
逝去記念聖餐式

日時 2025年6月5日(木) 午前10:30

場所 神戸聖ミカエル大聖堂

司式 司祭 瀬山 会治

説教 司祭 八代 智

どなたでもいらしてください

＊6月の記念逝去教役者

8日	司 祭	チャールズ	ワ	レ	ン
13日	司 祭	ダニエル	植	村	信 久
13日	司 祭	ヘンリー	ピ	ー	ト
13日	伝道師	マリア	鈴	木	嵯 峨
19日	伝道師	ヨハネ	伊	木	久 次 郎
19日	司 祭	ダビデ	豊	横	田 豊
20日	司 祭		牧	岡	鉄 弥
20日	司 祭	トマス	角	瀬	史 和
20日	主 教	テトス	中	道	淑 夫
21日	司 祭	ミカエル	津	留	孝 夫
22日	司 祭	施洗者ヨハネ	佐	々	木 崇
23日	司 祭	マタイ	覚	前	信 三
29日	主 教		横	田	道 信

＊逝去年月日不明の方々もお祈りします。